

## 倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会（第4回） 会議録

- 1 開催日時 平成22年12月27日（月）14時～15時45分
- 2 開催場所 倉吉市役所大会議室（本庁舎3階）
- 3 出席状況
  - (1) 委員 出席者14名、欠席者4名（別紙名簿のとおり）
  - (2) 事務局 3名
- 4 目的 次に掲げる事項を検討、確認するために懇談会を開催したもの。
  - (1) 副会長の選任について
  - (2) 鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）の検討状況について
  - (3) 鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）について
  - (4) 今後の予定スケジュールについて
- 5 次第
  - (1) 開会
  - (2) 会長あいさつ
  - (3) 副会長の選任について
  - (4) 報告事項 鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）の検討状況について
  - (5) 検討事項 鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）について
  - (6) その他 今後の予定スケジュールについて
  - (7) 閉会
- 6 資料 別添資料のとおり
- 7 結果 本日の会議の結果、次のとおり報告及び検討を行った。
  - (1) 副会長の選任について  
本懇談会の副会長に上本委員（鳥取中央農業協同組合）を選任した。
  - (2) 鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）の検討状況について  
これまでのビジョン策定の経緯と今後の流れを資料に基づき報告し、確認し合った。
  - (3) 鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）について  
これまでのビジョン策定の経緯の中で調製したビジョン（素案）の資料に基づき、中部圏域の概要、現状や課題、圏域の将来像、今後の検討課題等を説明し、その内容を検討した。なお、1月6日（木）までに各委員が事務局に対して、圏域の将来像の提案、ビジョン全体に対する意見を提出し、その結果を踏まえて、会長と事務局でビジョン（素案）を決定することとなった。

(4) その他

スケジュール資料に基づき、今後のスケジュール（予定）を確認し合った。

なお、主なスケジュールとしては、パブリックコメントを実施し、その結果を踏まえて、次のとおり第5回懇談会（全体会）を開催することとした。

平成23年2月8日（火）14時～15時30分 倉吉市役所大会議室（本庁舎3階）

8 会議内容（要旨） 下記のとおり

---

会議内容（要旨）

1 開会

○ 事務局

本日は、年末のお忙しいなかお集まりくださいまして、どうもありがとうございます。

定刻になりましたので、ただいまから倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたします。まず始めに、本懇談会の開会に当たりまして、山田会長からご挨拶をいただきたいと思ひます。

2 会長あいさつ

○ 山田会長

今年もあと4日間ということで、時の流れの早さに戸惑いを覚えるようになりました。毎年、その年を表す漢字というのがありまして、今年の漢字は「暑」だそうです。2つ目が「中」、3つ目が「不」となっています。

この共生ビジョンに当てはめてみますと、「中」とは中部と考えられると思ひます。「暑」というのは中部のために思ひっきり汗をかこうと、それから「不」に関しては中部をどのようにして自立した中部にしていくのか。そのように考えることができるかと思ひます。

あえて一つの漢字で表してみますと、「絆」とか「結びつき」とかになるかと思ひますが、そのようなものを活かして、いかにしてこの共生ビジョンを作り上げていくかということだと思ひます。

この共生ビジョンは、9月24日に1回目の懇談会を開催しまして、その後、3つの部会に分かれて、2回、3回と議論していただいて、本日、全体会として4回目の会議となります。

今日は、これまでの部会で詰めていただいたことを全員で少し確認しながら、今後どのようにしていくのかと、こういう作業になろうかと思ひます。

どうぞ、忌憚のないご意見をお願いしたいと思ひます。

3 副会長の選任について

○ 事務局

それでは次に、会議次第の「3 副会長の選任について」に入らせていただきたいと思ひ

ますが、その前に委員交代の報告と会議の事務連絡をさせていただきたいと思います。

まず、委員交代の報告についてですが、本懇談会の副会長と産業振興・地産地消部会の部会長を務めていただいていた倉吉商工会議所の山脇委員が、先月末をもって同会議所を退職されました。これに伴いまして、新たに倉吉商工会議所の佐々木事務局長が委員としてご参加くださることになりましたので、委員交代の報告と併せて委員のご紹介とさせていただきます。

○ 佐々木委員

ただいまご紹介いただきました倉吉商工会議所の佐々木と申します。前任の山脇が先月末で退職いたしましたので、その後ということで参加させていただくことになりました。

色々聞いていきながら汗をかかせていただきたいと思います。どうかよろしくお願い申し上げます。

○ 事務局

次に、会議の事務連絡として2点連絡させていただきます。

まず1点目としまして、会議の成立要件についてですが、本日は、委員18名のうち、13名（途中参加1名）の委員の方にご出席いただいております。これによりまして、会議の開催要件であります委員の過半数の出席を満たしておりますので、ここにご報告申し上げます。

次に、本日の会議日程についてですが、この後、本懇談会の設置要綱に基づき、山田会長に議長を務めていただきまして会議を進行していきます。会議の進行状況を見ながら途中で休憩を入れさせていただきたいと思います。遅くとも4時までには閉会させていただきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、ここからの進行を山田会長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○ 山田会長

お手元の次第に沿って進めたいと思いますが、次第3の副会長の選任ということですが、先ほどありましたように、山脇委員が辞められたことに伴い、新たに副会長を選任する必要があります。副会長の選任につきましては、本懇談会の設置要綱の第5条第1項で、「委員の互選によってこれを定める」ということとされておりますが、もし皆さんに異論がなければ、会長である私の方からの指名をもって互選とさせていただきたいと思っております。

（委員より異議なしの声）

○ 山田会長

異議なしという声をいただきましたので、私の方から副会長を指名させていただきます。

本日は、ご都合が合わなかったのご欠席ですが、鳥取中央農業協同組合の上本委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

4 報告事項 鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）の検討状況について

○ 山田会長

続きまして、次第4の報告事項、鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）の検討状況についてということで、事務局から説明をお願いします。

○ 事務局

それでは資料に基づきまして説明させていただきたいと思います。

お手元の方に、資料1という資料を配布させていただいております。この資料は、9月24日の第1回の懇談会の会議資料を修正させていただいたものです。こちらで、これまでの経過につきまして、振り返りということで簡単に説明をさせていただきたいと思います。

1 ページ目の1番としまして、定住自立圏共生ビジョンの策定方法についてと記載させていただいております。その下に図を入れておりますが、皆様のご参加をいただきまして懇談会を設置し、共生ビジョンの策定を進めております。そのほか、現在、鳥取中部ふるさと広域連合の方で広域計画の策定に取り組まれております。特に、広域連合の広域計画の方とも調整を図りながら策定作業を進めてきたところでございます。

続いて2ページ目になります。ビジョン懇談会の運営体制ということで、本日は、全体会ですが、その下にありますとおり、医療・福祉・教育部会、産業振興・地産地消部会、交通・移住・情報部会という3つの部会を置かせていただきまして、各政策分野に関する検討を進めてきたところでございます。

続きまして、3ページ目になりますが、こちらの方で策定スケジュールの方を示させていただいております。

上側になりますが、(1)全体スケジュールということで、真ん中の少し網がかかっているところが、こちらの懇談会の検討のスケジュールとして出させていただいたものです。

下側の(2)は、懇談会の検討スケジュールですが、1回目は、9月24日に全体会を開催いたしました。続きまして、②の11月8日、9日、10日というところで、第2回の部会を開催させていただいております。この中で、圏域の基礎データを確認いただき、圏域の概況の検討・整理、それと皆様の方からご意見をいただき、圏域の課題と可能性、特に強みと弱みという視点でご意見をいただききたところでございます。③の第3回の部会につきましては、11月24日、26日、30日の3日間で開催させていただきました。この中で、圏域の課題と可能性の整理を行った上で、将来像の方向性、具体的には、圏域の可能性などを踏まえて、圏域の将来像としてどういう方向に向かっていけばいいのかというところを皆さんと一緒に検討させていただいたところでございます。それと、協定に基づく具体的な取組の確認ということで、定住自立圏の手續と現時点で協定を締結している取組の内容を確認させていただいたところでございます。④として、本日、第4回の全体会を開催しております。

本日は、これまで各部会でご検討いただいた課題や可能性、将来像というところを一本にまとめておりますので、後ほどご検討いただきたいと思いますと思っております。また、そのビジョンの中で将来像のキャッチフレーズといった部分も、今回、案として複数出させていただいておりますので、その部分も併せてご検討いただきたいと思いますと思っております。

また、最後の方で説明させていただきたいと思いますが、第5回の全体会につきましては、当初の予定どおり2月上旬のあたりで開催させていただきたいと考えております。ここで、ビジョン(案)の決定と、これまでの懇談会の中で色々な課題が出てきておりますので、そのあたりを今後どういう形で具体化していくのかというところで、今後の懇談会の運営などについて、ご検討いただきたいと思いますと考えております。

以上、これまでの状況の報告とさせていただきます。

(委員からの意見等なし)

## 5 検討事項 鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）について

### ○ 山田会長

それでは、次第5の検討事項であります鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）について、事務局から説明をお願いします。

### ○ 事務局

検討事項ということで、鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）の説明をさせていただきます。

お手元の資料2が、平成22年12月22日時点の定住自立圏共生ビジョンの素案原稿となっております。

これは、先ほど説明しましたが、これまでの第2回、第3回の部会の中で、皆様方からご意見をいただいたりしたものを一本化した形でまとめさせていただいたものになります。

目次の方を見ていただきますと、第1章は総論的なもので、「はじめに」と題し、ビジョンのあり方などを記載し、次の第2章は、中部圏域の現況ということで、圏域の現状をまとめております。第3章は、課題と可能性、第4章が将来像となっております。目次の中の第5章、第6章は、具体的な取組と今後の検討課題について記載しております。この部分は、本日の会議の中で説明する部分もありますが、パブリックコメントも踏まえて、今後の検討課題として整理する部分でもありますので、最終的には、このような形でビジョンとしてまとめていきたいと思っております。

それでは、まず1ページをご覧ください。

第1章の「はじめに」ということで、ビジョンの目的というところを追加させていただいております。これについては、定住自立圏構想推進要綱、また定住自立圏形成協定などに基づいて、この共生ビジョンがあるということで示させていただいております。特に、定住と自立というものに対する取組、将来像というものを示していくものであるということ、この共生ビジョンは、総務省をはじめ、国の各省庁の支援の根拠になる、そういった計画の位置付けにあるということを示しております。

それからその下の2番、定住自立圏の名称及び構成市町ということで、こちらは地図等を記載させていただきました。

次の2ページをご覧ください。ビジョンの期間ということで、この共生ビジョンにつきましては、平成22年度から平成26年度までの5年間の計画ということになっております。

また4番のビジョンの進行管理ということで、計画から実行、評価、そして、それを見直し改善していくというPDCAサイクルの考え方にに基づき、この計画を進めていこうという形で載せさせていただいております。これにつきましては、また、今後、どこで見直すのか、いつ見直ししていくのか、それをどのように反映していくのかというようなサイクルについても検討してみたいと考えております。

それから3ページになります。ここからが第2章の圏域の概況ということで、主に各分野の現状という部分になっております。ここは、第2回の懇談会で説明し、ご検討いただいたところですので、割愛させていただきますが、7ページだけをご確認ください。

将来人口のところですが、こちらは前回お示しさせていただいていた数値と若干変わって

おります。倉吉市総合計画の将来人口の推計値と整合性を図ったという形で修正し、記載させていただきます。その結果、若干、前回の推計値よりもやや増加しております。

また、推計値につきましては、趨勢人口、封鎖人口、そして趨勢人口と封鎖人口との差という形で表記させていただきます。趨勢人口と言いますのは、これまでの人口動態が今後も続くと仮定して推計した人口です。封鎖人口と申しますのは、人口動態の中で、社会移動、つまり転入とか転出がないだろうと仮定して行った推計人口です。今の文言は一番下に注釈として入れさせていただきます。そのようなところで、今後、移動を加味しない人口と加味した人口との推計値の差を見たときに、表の方で言いますと、平成 27 年で約 4000 名の差が出てくると、これが 30 年後の平成 52 年では、約 1 万 2000 名の差が出てくるということです。今回、定住に向けた取組を行うことで、社会移動による人口流出を歯止めできると仮定すれば、この程度の人口への影響が出てくるのではないかという意味合いを持たせて表させていただきます。

9 ページ以降は、各分野の現状となっておりますのでご確認ください。

続きまして、14 ページをご覧ください。第 3 章の圏域の課題と可能性ということで、こちらの方は、前回、第 3 回の部会で説明し、ご検討いただいたところになっております。特に、課題等としてご意見をいただいた中で、変更を加えた点といたしましては、14 ページの(1)暮らしを支える生活分野に関連する課題というところで、①について、特に、平日夜間における一次救急体制の整備、二次救急から三次救急への運搬体制の改善、それから各小児科医、産科医の不足、在宅医療体制の充実などについて、委員からご意見のあったところでしたので、そういったものを加えさせていただきます。

それから②につきましては、福祉の分野になりますが、特に子育てに悩む家庭へのサポート体制が課題であるというようなご意見がありましたので、その辺を加えさせていただきます。

それから③につきましては、教育分野として、特に生涯学習施設、体育施設などの教育施設の充実などを追記させていただきます。

それからその下の(2)活力・元気を生み出す産業分野に関する課題というところで、特に変更いたしましたのは、②の部分に第二次産業や第三次産業についても、地場産業の衰退や雇用情勢の不安定化が進んでいるということ課題として追記させていただきます。

それから、③の部分では、郊外での大型店舗の出店がある中で、特に市街地の空洞化が進んでいるということを追記させていただきます。

それから 15 ページをご覧ください。(3)の①に豊富な農産物、水産物がある中で、それを圏域内で消費していく体制が充実していないためというふうに変えさせていただきました。前回の時点では、圏域内の地産地消の割合が約 50 パーセントという表現としておりましたが、その数値が曖昧でしたので、改めた表記にしております。

それから②の公共交通などの分野について、今後、更に超高齢社会が進展していく中で、高齢者の通院・買い物などの交通手段の確保が課題となってくるというご意見がありましたので、追記させていただきます。

それから⑤の情報に関する分野の課題として、情報通信技術、ICTを活用した情報発信の強化ということで追記をさせていただきます。課題の面は以上となっております。

それから17ページをご覧ください。こちらからが圏域の可能性ということで6つ挙げさせていただいております。特に変わった部分といたしましては、(3)圏域を支える産業基盤と特色ある産業構造をもった圏域ということで、圏域の豊かな資源、特色ある産業構造を生かして6次産業の創出、また、農商工連携・産学官連携等のものづくり産業の強化、それから農林水産業の振興と地場産業の育成などを図っていきながら新規産業も誘致して、一体的に経済基盤を強化していきますというような文言に改めさせていただいております。

それから18ページをご覧ください。こちらで変更いたしましたのは、(5)県の中央部に立地する利便性を活かせる圏域ということで、今回は、都市部からのアクセス時間とを表記しておりましたが、鳥取空港・米子空港からの飛行機を活用して、主要都市へのアクセスが可能な環境もあるというような表現に変えさせていただいております。

19ページからは、今回改めて、第4章の圏域の将来像を追記させていただいております。

「1. 圏域の将来像」ということで、現在、国全体が人口減少社会にある中で、今後、より一層、地域、基礎自治体における役割、責任というものが重要視されてきております。中部圏域におきましては、先ほど可能性を挙げさせていただきましたが、中部圏域の中には、美しい自然、また生活支援の基盤が整っていること、またアクセス面や交流に活用できる色々な拠点があるということ、それから、やはり圏域にある温かみのある絆、そういった風土などが圏域の特性として、可能性のある部分として持っていると考えています。そうした中で、この圏域には、古くから文化やまた経済面において、非常に深い繋がりを形成していて、近年の高速交通網の整備であるとか、また情報通信網の整備において、その結び付きがますます強くなってきていると考えています。

将来像におきましては、このような強い連携意識を含めながら、倉吉市の機能、また周辺の各4町の機能を連携させて、まずは質の高い暮らしよさ、住み続けたい要素を感じられることで人口流出に歯止めをかけようと考えています。そして、色々な魅力のある資源、交流拠点などを活かしながら、住みたくなる要素としての魅力を創出していって、人口流入を増やしていこうと考えまして、そのような考え方に基づき、今後の山陰の地域になくはない要所として、中部圏域の自立を目指していきましょうという考え方を表記しております。

その下に将来像のキャッチフレーズということで記載させていただいておりますが、こちらにつきましては、お手元に追加検討資料ということで、A4の1枚を置かせていただいております。こちらに3案ほど挙げさせていただいております。

1つは、「彩りある豊かな<sup>あした</sup>未来を創出する 文化田園都市圏～5つの絆で中部はひとつ～」です。彩と言いますのは、中部圏域の色々な自然環境や豊かな地域資源、未来と言いますのは、これから先の実りのある暮らし、若者の希望、次世代の笑顔、文化田園都市圏と言いますのは、歴史・伝統に深い土地柄であることや豊かな自然環境と都市機能を併せ持つ圏域を表しており、そういう圏域を目指そうということで挙げさせていただいております。「5つの絆」と言いますのは、1市4町の連携、また行政と地域の協働、それから中部の温かい気風、絆、人と人との支え合い、それから圏域内外の交流、このあたりの絆を大事にしようということで、「5つの絆」とさせていただいております。

2番目といたしましては、「人・自然・暮らし・活力が調和する 交流文化都市圏」という

ことで、人とか自然、それから暮らしと活力といいますのは、魅力であったり、特性であったり、今後伸ばしていきたい部分を改めて具体化して表記したものです。それらを調和、融合させて行きましょうということ、交流文化都市圏と言いますのは、交流、ふれあいというような意味において、新たな文化を生み出していこう、また新たな繋がりを生み出していこうというような将来像となっております。

それから3案目は、「“癒し”と“魅力”の共創空間<sup>エリア</sup> とっとり中部～彩りある豊かな未来<sup>あした</sup>を目指して～」ということで、特に癒しと魅力と言いますのは、中部圏域の色々な要素、魅力を示しています。そして、そこに共創という少し新しい考え方を入れています。これは最近、企業体、若しくは街づくりの中で大切にされている考え方でありまして、コラボレーションということで、1市4町の連携や色々なまちづくり分野の連動、それから行政と地域との協働、共生により、圏域の暮らしよさや未来を創り出していこうという気持ちを表しています。あと、あえて空間というような柔らかい言葉を使いました。都市圏とか圏域、地域というような意味を持たせていますが、住民の方も受け入れやすいような柔らかい言葉というイメージで作っており、中部圏域の機能やネットワークが今後も広がっていくというようなイメージが浮かぶように共創空間と使わせていただきました。

このような3案を出ささせていただきます、またこのあたりにご意見をいただければと考えております。

それから、素案に戻っていただきまして、20ページと21ページになります。

今のような将来像に基づきながら、圏域づくりの基本方針ということで、5つの柱を記載せさせていただきます。

1つ目は「美しい自然環境、多彩な地域資源を活かした圏域づくり」、2つ目は「安全・安心が確保された住み良い圏域づくり」、3つ目は「活力・元気を創出する魅力ある圏域づくり」、4つ目は「人・モノ・情報の流れを促し、結びつきを強める圏域づくり」、5本目は「地域づくりを担う人を育成する圏域づくり」ということで、こちらは、第3回の部会の中でお示した柱と大きく変えておりません。課題と可能性の検討の中からこの5つの柱を導き出してあります。

21ページには、先ほどの将来像と圏域づくりの基本方針、そして、定住自立圏構想の3つの視点、この3項目の関係図を記載せさせていただきます。

以上、共生ビジョンの将来像までの報告とさせていただきます。

○ 山田会長

それでは、第1章と第2章に関して、ご意見があればお願いします。

(委員からの意見等なし)

○ 山田会長

それでは、第3章の方に入りたいと思います。御意見があればお願いします。

(委員からの質疑等なし)

○ 山田会長

それでは、第4章の将来像について、お手元のA4の資料を見ていただきながら、これのどれかということではなく、これも含めて、皆さんからの意見をいただきたいと考えておりますが、ご意見があればお願いします。



- 小谷委員  
この素案については、例えば、ここで話し合った後、いろんなどころに出ていくのか。
- 事務局  
今、皆さんにご検討いただいております将来像につきましては、このビジョンの中で位置付けるとともに、中部の広域行政を担っている広域連合の方でも同じ将来像を共有し、取り組んでいくということになっております。このため、この将来像は、この定住自立圏のビジョンだけでなく、最終的には中部全体でこういう将来像に向かっていきたいと思いますということ、住民の皆さんとも共有していきたいと思っております。よって、パブリックコメントなども予定しております。
- 小谷委員  
中部の住民の方の目に触れるわけですね。
- 事務局  
そのような思いで準備を進めています。
- 谷本委員  
暮らしの良さ、住み続けたい要素を感じられる生活基盤を整備していくことが、人口減少を食い止めるのに必要な要素といえますと書いてありますが、これまで私も全国の同じようなところを行ってきました。確かに暮らしのよさでは、日本でも有数の暮らしのいいところだと思います。住むのにはすごくいいところ。ところが人口減少は食い止められてない。ずっと減少し続けているということは、暮らしの良さだけでは、私はだめだと思うんです。やっぱり稼げる場所がないと。ですから雇用の場を増やして人口の流出をまず止めて、それから増やしていくという具合にしていけないと、定住、自立できないというふうに思います。  
人口問題と書いてありました。ほっといたらどんどん減っていくと。なら具体的にどうしていくというのが全然ないわけです。何年までに流出を防いで、何年から増やしていくと。そのためには何をどうするかということがないと、どんどん減っていくのではないかと。
- 山田会長  
それでご意見としてはどういうことでしょうか。
- 谷本委員  
ビジョン全体がボワっとしたものになっておりまして、これから具体的にどういう活動を行っていくのかなど、余りピンとこないのですが。
- 山田会長  
我々はまず構想までを固めて、その後の具体策はこれを受けてのことかと思えます。まず大枠を見ていただいて、具体策はその後に生じていくと。将来像までは、あくまで暮らしのこともあれば、産業のこともあれば、教育のこともあるので、次の展開なのかなと認識していますが。
- 谷本委員  
これとまた別ですか。
- 山田会長  
これ以降がそうですよということで、そういうことでいいですか。
- 事務局

今のご質問についてですが、圏域の将来像のところまでの中で、先ほど山田会長からもありましたように、各分野の課題、可能性を分析した結果を踏まえて、先ほど5つの大きな柱を出ささせていただきました。そして、21ページまでの中で中部圏域の将来像に向けて大きな構想と申しますか、大きな枠組を示させていただきます。

この後の22ページ以降から具体的な取り組みというところに入っていきますが、当然、中部の将来像に向かって取り組んでいくものには、1市4町で連携して行うこと、市や町が単独で行っていくこと、更に、広域連合でやっていくものもあります。

この21ページ目までは色々な主体の方々と一緒に共有できるような大きな方向性を示し、22ページ以降で、将来像の実現に必要な取組の中で、市と町が連携して行っていく具体的な取組を記載していくという形になっています。

○ 山田会長

具体的な取組については、22ページ以降に記載してあります。今、我々が主に検討しているところは前段の構想部分という、そういう理解をお願いします。

○ 事務局

皆様にお配りしております追加検討資料ということで、A3の縦長の大きな1枚物をご覧くださいと思います。左上に書いておられますとおり、これは次回、2月に予定しています第5回の懇談会の検討事項ということでご検討いただくものですが、少しご覧いただきたいと思います。

こちらに書いておられますのは、懇談会において整理した今後の検討課題ですが、まず表の見方としまして、左側に将来像を記載し、その将来像に向かって取り組む圏域づくりの方向性と、定住自立圏構想の3つの視点との相関図を記載しています。更に、3つの視点ごとに「a.医療」、「b.福祉」、「c.教育」というような政策分野があります。このa、b、cなどの政策分野については、あらかじめ総務省が人口定住に必要な分野だろうということで、決めているものでございます。

その次、右側になりますが、表の上の方に「定住自立圏形成協定(協定項目)」と記載しており、その下に説明書きを入れています。ここの協定項目という部分が、市町のそれぞれの議会の議決を経た上で、市と町の間で協定を締結するというものです。よって、例えば、この列に修正を加える取組があった場合には、協定に追加する工程が必要だということで見てくださいと思います。その協定を締結して取組を進めていく中で、今度は右側になりますが、現在、ご検討いただいております定住自立圏共生ビジョンということで、協定に基づく具体的な取組を実施する場合、具体的な事業をビジョンの中で位置づけるということになります。ビジョンの位置づけるためには、下に書いてありますが、まずこちらの懇談会の検討を経た上で、関係する市と町の間で協議を行い、倉吉市の方がビジョンとして策定するという流れになります。こういう手続を経て取組を行いますと、最終的に国の何らかの支援が受けられる可能性が出てくるということになります。

この表の中で網掛けと網掛けをしてないものがございます。まず始めに網掛けしていないものといいますのが、今回の第1弾ということで、今年の3月31日に1市4町の間で協定を行った協定項目ということになります。例えば、福祉分野では、認知症に係る支援体制の整備、子育て支援体制の整備及び充実など、こういう網がかかっていないものについては既に協

定ができているということになります。

同じようにその右側の網掛けをしてない部分、認知症診断システム構築事業、タッチパネル整備活用事業など、こういった事業につきましては、これからこのビジョンに位置づけることによって事業を実施し、国の支援を受けていこうというものでございます。

それ以外の網掛けの部分ですが、これまでの第2回、第3回の部会を通じて、皆様からいただいた課題、こういう取り組みが必要ではないかというものを事務局側で整理したものでございます。

例えば、1番目の医療をご覧いただきたいと思いますが、医療につきましては、大きく2つありまして、1つは救急医療体制の充実、もう1つは地域医療体制の充実です。これらに関する具体的な取組、例えば救急医療体制の充実であれば、一次救急体制の充実ということで、休日急患診療所の維持や平日夜間の診療体制の確保というようなことが今後必要ではないかという意見がありましたので、改めて位置づけております。

これらの取組を国の支援を受けながら進めようと思えば、定住自立圏形成協定のところに網がかかっていますので、まずは、定住自立圏形成協定の変更を行って、協定の中に救急医療体制の充実、地域医療体制の充実を位置づけ、次にビジョンの中で、一次救急体制の充実に関する事業を位置付ける必要があるということになります。

逆に、例えば、「b.福祉」の子育て支援体制の整備及び充実の右側にあります子育て相談体制の充実に取り組むのであれば、既に、協定に子育て支援体制の整備及び充実を位置付けていますので、協定の変更は不要で、ビジョンに子育て相談体制の充実に関する事業を位置づければ、すぐに取り組んでいけるという形になります。

以上のような形で、これまで各委員さんからいただいたご意見をまとめておりますので、こちらについて、今後、パブリックコメントで住民の皆さんから出てきたご意見を踏まえて、一覧表を調製し、最終的に次の第5回の懇談会のときに、今後の検討課題を決定して、優先順位を付けて部会を設置し、具体的な事業化に向けた話などを進めていく必要があると考えているところでございます。以上です。

○ 山田会長

具体的な取組については、これを大前提にということですね。

将来像については、今、福井さんと話をしていたのですが、できるだけ短いやつがいいよなど。それも含めながら、皆さんのご意見を伺いたいたいです。

○ 事務局

将来像の資料ですが、追加資料を見ていただきますと、この3つでどうかということではなく、裏ページにこれまでの部会の中でご意見をいただいたキーワードであるとか、資料の中で出てきた文言を記載しております。こういったところも参考にしながら、ご意見をいただけたらと思います。

○ 福井利委員

将来像の素案、案が3つ示されました。非常によく勉強された案だと思いますが、中部の住民の一人として感じるころは、ちょっと私との接点が遠いなという感じを受けます。この3つの案ともそれぞれほのぼのとした感じは受けますが、倉吉市を中心とした1市4町の具体的な接点が、キャッチコピーからは感じるできないという風に思います。

何か大変失礼な言い方かもしれないのですが、全国どこの町に持っていっても使えるようなキャッチコピーになってしまっているのではないかと。特に、この倉吉市を中心とした1市4町の鳥取県中部は、現状では決してこんなほのぼのとした状況ではない。幾つか現状と課題の中で出たわけですが、非常に厳しい今の生活の中で、こんなほのぼのとしたキャッチコピーで、果たして定住自立圏のビジョンが見えてくるのだろうか。もっともっと厳しさの中で、住民の将来に対する期待、希望が見えるような言葉を掲げる必要があるのではないかと思います。

非常に否定的な意見になって申しわけないですが、現状を思うときに、このほのぼの感では、中部の住民に対してアピールするものがないような、そんな思いがします。

○ 山田会長

例えばどんな言葉が。

○ 福井<sub>利</sub>委員

例えばと言われますと、そこまでの知恵はまだありませんが、一つ言えることは、最初の素案の1にサブタイトルとして「中部はひとつ」という言葉が挙げられておりますけれども、ちょっと話が脱線して申しわけないですが、先日ある経済団体がこの中部の自治体に、中部はひとつであるところの提言書を持って出られた新聞記事を読みましたが、厳しい今の時代だからこそほのぼのとした期待ではなくて、もっと大胆な言葉を織り込む必要があるのではないかと、具体的にどういう言葉がいいのかと言われますと、今それに答える言葉を持ち合わせておりません。もう少し時間をかけて、我々自身の言葉でと思います。

○ 遠藤委員

私も湯梨浜町という視点から見たときに、文化田園都市というのはぱっとしないというか、1市4町の住民がぱっと見たときに共有できるものがないなと思います。それじゃ何かと言われたときに具体的な言葉はありませんが、ある意味、造語的な新しい言葉というのを考えてもいいのかなと思います。

もう少し何か新しいものが生まれて、なおかつ1市4町の、どこの地域でもイメージが共有できるというようなものを考えたいなというふうに思います。

○ 桑本委員

「中部はひとつ」という言葉があって、鳥取中部というような言葉が入る、それからこの中部は農業圏、田園都市というか、それとあわせて、歴史や伝統もあります。

そういうものを合わせて、今、話しに出たような未来像、未来中心という施設もありますので、豊かな未来という3つを合わせたようなものがあるのかなと、話を聞いて思ったところです。

○ 山田会長

今のお話に比較的近いのはどれになりますか。

○ 桑本委員

一番下の「とっとり中部」。

○ 山田会長

多分これは一本になかなかまとまらない。いろんな思いが相当あるので、先ほど福井さんがおっしゃった厳しさももちろんそのとおりですが、一方で、発想として、でも良いところ

を伸ばしたらどうなるかというところで、こういう案があると。

今のところの状況に対して、パブリックコメントをとりますが、この後、また皆さん方から会議の中で意見を出していただいて、次回のときにこれを含めて議論するのでしょうか。

○ 谷本委員

案ですが、日本一の田舎、田舎の魅力を全国発信する鳥取中部というのはどうでしょうか。全国を見てもどこにも負けない部分は、僕は田舎だと思う。全国一の田舎。この中部は立派な田舎です、本当に。僕はそこを強調して、全国的に勝てるのは田舎度だと思います。

○ 山田会長

私も全国30箇所ぐらい回っていますが、僕はそんなに田舎と思っていません。文化度が結構高い。映画館一つ、買い物するところを探しても見つけやすい。だから感覚が違くと。多分いろんな感覚があるかなと思いながら聞いていましたが。

良さを強調したいという趣旨でよろしいですか。

○ 谷本委員

都会の無くした農産物、海産物、それから自然環境、素晴らしいものがあるわけですから。よそと競争するためにはやっぱり強いところを出していく必要があると思います。

○ 高塚委員

この鳥取県の中で東部、中部、西部と分けると、中部が将来的にも人口等も含めて落ち込む予想がされています。そうすると何か挑戦するような雰囲気のものがあるのもいいと思います。

6 その他

○ 山田会長

ちょっと先に、今後のタイムスケジュールを教えてください。

○ 事務局

スケジュールの話をさせていただきたいと思いますが、資料の3をご覧ください。

こちらが現在、事務局の方で予定しているスケジュールでございます。

予定としましては、本日、将来像を確認しまして、将来像を含めた素案という形でまとめたいと思っています。

今の予定ですと、来年1月中旬から1月末という2週間程度でパブリックコメントを予定しています。その間に若者に対するヒアリングを実施し、若者の意見も反映させたいと思っています。それが、短大生等に対するヒアリングというところです。

それで2月に入りまして、2月8日火曜日に第5回の懇談会を開催させてもらって、このビジョンを案として決定し、国が定める手続きに従い、正式に各町と協議を行って策定したいと思いますと思っています。

○ 山田会長

本日の会議で将来像が3つ出ています。また、その他の意見も出てきています。私が考えているのは、例えば来年の1月6日か7日までに委員の皆さんからご意見をいただき、それを見させていただいて、私の方で取りあえず一本に絞らせていただいて、それをたたき台にしますということにさせていただいていいでしょうか。

それは、あくまでも1案に絞るための手続で、パブリックコメントが終わった後に、ここで最終決定するというスケジュールにしたいと思いますが。正月も挟むので、1月6日までに総合政策室まで、この3つのどれが良いとか、その他の案もあったら全部寄せてください。それが固まった段階で、私と事務局とで皆さんからのご意見を踏まえ、私の主観も入れさせていただきながら一つに絞ります。

そして、パブリックコメントを経て、最終的にはここで決めるということにさせていただきたいと思います。

○ 福井<sub>利</sub>委員

本日、示された3つの案ですけれども、これはどういう形で3つのことがつくられたのか。その経緯を聞かせていただければと思います。

○ 事務局

まず一つは、これまでの第2回、第3回の部会のご意見を伺って、特に、第3回ではキーワードとなる言葉、そのあたりのご意見も言っていただいて、それを第一に踏まえております。

それから、これまでの経過の中で、中部の特性とか、特質といったようなものをまとめて、それをキーワード化して出させていただいています。最終的には、一度、会長ともお話し、各町にも意見照会して、それらの意見を踏まえて、3案という形になってきております。

また、意見として言わせていただくと、先ほど全国どこでも使えそうなものというご意見がありました。まず彩りという部分は、非常にいろんな多様な地域資源がある中部圏域というところで、このような言葉を使わせていただいているということと、それから田園という言葉は、会長との協議の中でも出てきた言葉で出させていただいています。それからやはり一番多かったのは、中部はひとつという言葉がどの資料を見ても、またどの委員さんからもご意見がありましたので、そういった言葉を使わせていただいています。

絆といいますのは、改めて考えてみて、この温かい風土、それからここに住む人の関係性というものが中部はひとつという言葉の裏側にもあるのではないかとということで出させていただきました。そこへもって、1市4町の連携を含めて、5つという数値を入れて、改めて具体化させたというのが1案目のところです。

あとは、先ほど言ったような流れで、特に、今後、圏域に必要なだろうというキーワードのようなところから共創であったり、交流であったりといったところを足し合わせて、また、ちょっと視点を変えたキャッチコピーも第3案では作らせていただいて、そのような流れで趣旨の違うというか、タイプの違う案を3つそれぞれ出させていただいたというのが経緯であり、思いとなっております。

○ 山田会長

では、これに関しては以上ということで。他にどの分野でも結構ですので、ご質問を受けます。

○ 福井<sub>利</sub>委員

第3章の圏域の課題と可能性、14 ページ、(2)活力・元気を生み出す産業分野に関する課題です。ここの③「郊外での大型店舗の出店が目立つ中、市街地での空洞化が進んでおり、活気や賑わいが少なくなっている状況がうかがえます。」というところで終わっております。

課題としてここで止めてはならないと思うわけです。これでいいのか、これでよくないのか。これをどうしようとするのか。このままでいいのか。課題として出すのであれば、その先の言葉が必要ではないかと。その部分で問題があるぞということを強調する必要があると思いますし、そして、さらにそれをどうしようとするのかということです。

○ 事務局

市街地の空洞化の部分につきまして、どういうところが課題なのかということですが、これまでの部会の意見、更に、先日、会長との協議の中でも、やはりそういう部分で空き店舗の利活用による活動の場、賑わいを生んでいく必要があるということも話がありました。そのようなところが課題と考えております。そういった視点から、今後の検討課題の一覧表の中でも、産業振興の真ん中、産業基盤の強化・充実、その右側に商店街、市街地の活性化ということで、空き店舗等の活用促進等ということを入れております。そういった形のを補足で追記させていただければと思います。

また、圏域の課題や可能性につきましては、第2回、第3回の部会の中でご意見をいただいた部分を一つ一つチェックしながらビジョンの中に入れておりますので、漏れがないということをご確認いただけたらと思います。

○ 山田会長

またよくお読みいただいて、中身に関しても、1月6日までにご意見があれば事務局へ言っていただくというふうにしたいと思います。

○ 事務局

第5章以降は、先ほど今後の検討課題の中でも触れさせていただきましたので、またご覧いただき、ご意見があれば、1月6日までに併せて教えていただきたいと思います。

○ 山田会長

タイムスケジュールも先ほどの説明があったとおりですね。

○ 事務局

はい、その通りです。なお、2月8日は、本日と同じ時間、同じ場所を予定しています。

○ 山田会長

それでは、来月6日までに、圏域の将来像を含めて素案全体についてご意見がありましたら事務局までご提出いただいて、そのご意見を踏まえて、私と事務局がもう一度検討すると。それからパブリックコメントを実施し、そして、我々は2月8日に話し合いをすると、そういう流れをご確認いただき、本日は、これで閉会したいと思います。

どうもありがとうございました。